

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2019年度 助成者)

作成日 2019年 8月 24日

氏名 (フリガナ)	加藤幹也 (カトウミキヤ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2019年8月12日 (月) ~ 8月17日 (土)
大学名	名古屋大学
学年	5年

この度は、医学部夏期集中医学英語研修プログラムへの助成をいただき、大変感謝しております。1週間にも満たない短い時間ではありましたが、かけがえのない経験をすることができたと自負しております。私は、本プログラムに参加する際に、目標を3つ定めていました。その3つの目標をどの程度達成できたかという観点で、研修報告をさせていただきます。

最初の目標は、「英語でのプレゼンテーション能力の向上」でした。本プログラムは、初日のオリエンテーションで Dr. Kobayashi が宣言された通り、Case Presentation に特化したものとなっていました。レクチャーでは、Dr. Shon から Case Presentation のフォーマットやポイントを教わりました。患者役の学生からとった問診をもとに、何度も Case Presentation を実践し、先生方からフィードバックを受けることができました。また、ハワイ大学医学部 (JABSOM) の学生から聴取した問診をもとに、JABSOM のドクターたちに Case Presentation を実践し、アドバイスをいただくことができました。毎日、何度も実践とフィードバックを繰り返すことで、自然と Case Presentation の型が身に付き、スラスラと言葉が出てくるようになりました。最終日には、Dr. Shon から指名され、プログラム参加者全員の前で Case Presentation を発表する機会をいただき、大きな自信になりました。

第二の目標は、「固定観念を壊すこと」でした。JABSOM の学生たちとの交流を通じて、彼らの実践的な知識と思考力に驚かされたことで、現在の日本の医学教育という固定観念を見直すきっかけになりました。ともすると、国家試験に合格するための講義が中心となりがちな日本の教育に対し、JABSOM では講義はほとんどないそうです。PBL (problem based learning) や実技試験といった実践的で主体的な学習をしていると聞き、驚きを隠せませんでした。彼らは医学を学んでいる期間は私よりも短いはずなのに、私が教えられることばかりで、このまま負けてばかりではいけないとの思いに駆られました。また、ともにプログラムに参加した、海外志向の強い日本人学生たちに出会ったことも、私の考え方を変えてくれました。本気で将来アメリカで働こうとしている彼らの努力や普段の学習の方法を知り、普段の自分を見直すきっかけとなりました。さらに、ハワイで活躍する日本人ドクターたちの話を聞くことで、様々なキャリアプランがあるのだということを再認識しました。

第三の目標は、「医療コミュニケーションの習得」でした。Case Presentation は他の医師への情報伝達、上申を想定したものであり、Case Presentation を習得しただけでも、私の医療コミュニケーションの質は格段に上がったと言えます。また、JABSOM の医学生や現地のドクターとの交流を通じ、英語でのコミュニケーション能力が改善されたのはもちろん、名古屋大学から一人で、志高い日本人学生の中に飛び込んでいったことも、私のコミュニケーションに対する自信につながったと言えます。

以上、ハワイに行く前に立てた目標はすべて達成することができました。ハードなスケジュールではありましたが、一生忘れることのない、充実した時間を過ごすことができました。それも、ひとえに現地で指導に当たってくださった先生方、私たちの研修活動を支えてくださった Hawaii Tokai International College のスタッフの皆さん、支援をしてくださりました日米医学医療交流財団の皆さまのおかげです。感謝申し上げます。